

特別展 中山岩太

Modern Photography

Iwata NAKAYAMA



一九三三年

4月8日(火) — 5月25日(日)

渋谷区立松濤美術館



セルフポートレート1931年

(中山岩太略歴)

- 1895年 福岡県柳川に生まれる
- 1915年 東京美術学校臨時写真科に入学
- 1918年 東京美術学校臨時写真科を卒業
農商務省海外実業練習生としてカリフォルニア州立大学で学ぶ
- 1919年 ニューヨークの菊池東陽のスタジオで仕事をする (～20年)
- 1920年 千住正子と結婚
- 1921年 ニューヨーク5番街にラカン・スタチオを開設
- 1926年 ラカン・スタチオを売却し、渡仏する
スペイン旅行
「フェミナ」誌の嘱託となる
藤田、プランポリーニらと交流
- 1927年 帰国
個展 (東京・浅沼商会)
- 1928年 芦屋市に移る
- 1929年 芦屋市にアトリエを新築
- 1930年 芦屋カメラクラブを結成
第1回国際広告写真展で1等賞を受賞
- 1932年 野島康三らと雑誌「光画」を創刊する (～33年)
- 1935年 アシヤ写真サロンを開催
- 1936年 個展 (東京・小西六本店)
- 1939年 新設の国画会写真部で国画奨学賞を受賞、以後出品
- 1940年 神戸市観光課の出版物制作に参加
- 1945年 空襲により原版や資料を失う
- 1947年 再開した国画会写真部に出品
- 1948年 個展 (神戸・エンボニウム画廊)
- 1949年 脳溢血により逝去

講演会 4月20日(日) 午後2時より
「中山岩太と1930年代の写真」
講師 中島徳博
(兵庫県立近代美術館長補佐)
5月10日(土) 午後2時より
「中山岩太の魅力」
講師 飯沢耕太郎(写真評論家)

美術相談 4月19日(土) 午後2時～4時 5月17日(土) 午後2時～4時
講師 大和屋 徹(水彩画) 講師 北尾和子(水彩画)
佐藤善勇(油彩画) 西嶋俊親(油彩画)

美術映画会 4月26日(土) 午後2時より
美術のみかた(透視図法、近代の人間像)
5月24日(土) 午後2時より
日本の美(光と影、もう一つの日本美)

会期 | 4月8日(火)～5月25日(日)

休館日 | 月曜日、第2日曜日、祝日の翌日
4月13日(日)、14日(月)、21日(月)、28日(月)、30日(水)、
5月6日(火)、7日(水)、8日(木)、11日(日)、12日(月)、19日(月)

開館時間 | 午前9時～午後5時(入館は4時30分)

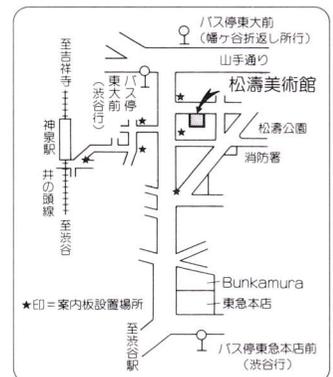
主催 | 渋谷区立松濤美術館

協力 | 兵庫県立近代美術館、芦屋市立美術館

入館料 | 一般200(160)円、小・中学生100(80)円 ()内は20名以上の団体料金

渋谷区立松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART

渋谷区松濤2-14-14 tel.(03)3465-9421 fax.(03)3460-6366



中山の作品世界を振り返るにあたって、ここでは8つの時代区分を添えてあります。

*** 東京美術学校時代 1915-18年**

中山は、東京美術学校（現・東京芸術大学）に新設された臨時写真科の第1期生として学び、常に優秀な成績を修めた優等生でした。

*** ニューヨーク時代 1918-26年**

卒業後、中山はカリフォルニア州立大学に留学した後、ニューヨークに行き、菊池東陽のスタジオに勤務します。21年には「ラカン・スタジオ」を開いて独立しました。

*** パリ時代 1926-27年**

短いパリ生活を、中山は職業写真家としてよりも、ひとりの芸術家として過ごしました。モダニズム芸術の成果に触れて、作品世界の基盤はここで築かれました。

*** スペイン旅行 1926年**

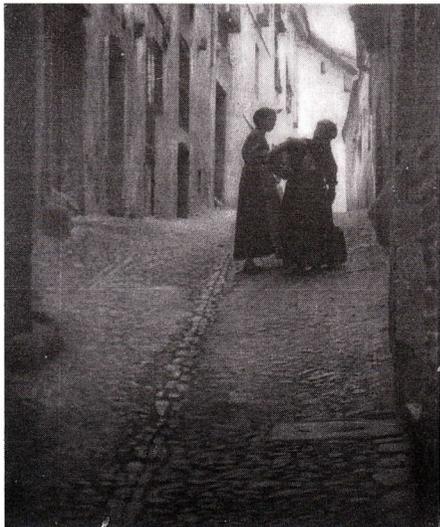
スペイン撮影旅行で得た成果は、1937年になって、「アサヒカメラ」誌で「スペインよ！何処へ行く！」と題したブロムオイルプリントの連作として発表されました。



《女の肖像》1916年



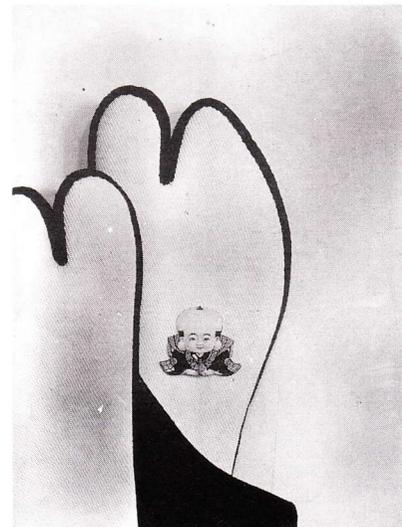
《女の顔》1920-25年



《スペイン風景》1926年



《黒い扇》1926-27年



《福助足袋》1930年

この展覧会は、写真家中山岩太とする回顧展です。日本の近代写真のモダニズムの分野において、彼の残した作品は決して忘れてはなりません。

中山岩太の写真作品は、作者のそれ、彼の美学に基づいたひとつひとつというメディアには様々に解釈が、中山にとって最も重要だった組もうとしたことではないでし

* 帰国 1927-30年

帰国後、中山は東京から芦屋市に移りました。1930年の第1回国際広告写真展で1等賞を受賞した《福助足袋》で、中山は一躍有名になりました。

* 芦屋カメラクラブと雑誌「光画」 1930-1934年

先鋭的な写真家集団・芦屋カメラクラブを組織し、野島康三らと共に写真雑誌「光画」に携わった中山は、日本の新興写真運動の最先端で活躍をします。

* アシヤ写真サロンと国画会写真部 1935-1942年

芸術を志向する新興写真から、社会的な報道写真へと写真界の風潮は変わる中、中山は自己の作品世界をより深化させていきました。

* 戦後 1945-49年

新しい表現の方向を模索しようとした中山の戦後は、大変短いものでしたが、珠玉の作品が残っています。

(1985-1949)の全貌を紹介しよう
写真、ことに新興写真と呼ばれる、
て、中山は特筆すべき活躍をしまし
られることのない魅力に今も満ち
内的世界を表現するものとして作ら
の世界を映し出すものです。「写真」
の可能な、多義的な性質があります
たのは、彼が「純芸術写真」に取り
ようか。



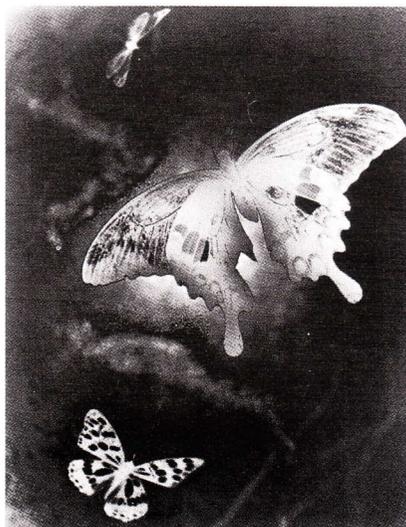
《……》1932年



《上海から来た女》C1936年



《命ナキモノ》1939年



《蝶(一)》1941年



《デモンの祭典》1948年